

図解! 「ふじ通り」

春日部市民なら誰でも知っている「ふじ通り」は、整備されてから、間もなく40年を迎える。ふじ通りにまつわる、あんなこと、こんなこと……。あなたはどれくらい知っていますか？



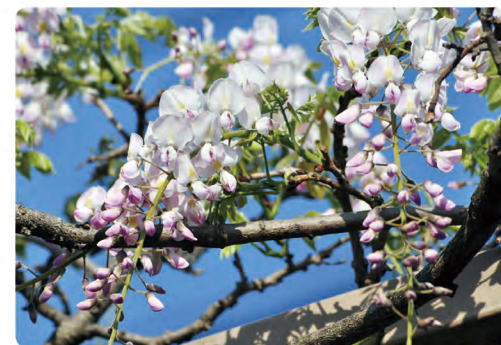
コクリュウフジ(黒龍藤)

[花色]濃紫色
[房長]20~30cm
[本数]約70本
花房が密で、濃い紫色のきれいな花がたくさん咲く。最も普及している品種



シロカピタン(白花美短)

[花色]白色
[房長]10~20cm
[本数]約20本
ふじ通りで一番初めに咲く早咲きの大輪。花房は短いが、香りが強いのが特徴

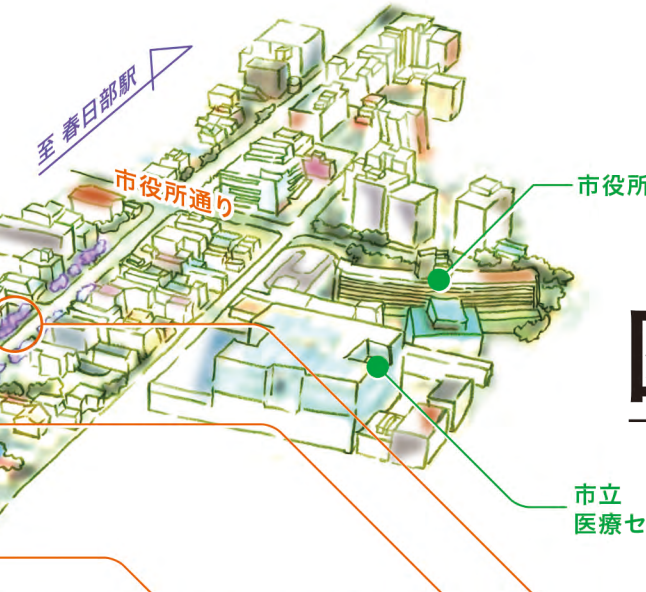


クチベニフジ(口紅藤)

[花色]白色
[房長]30~40cm
[本数]2本
蕾は淡紅色で、満開になると白色の花先に口紅のような淡いピンク色が残る上品な印象の花

アカカピタン(赤花美短)

[花色]紅色
[房長]10~20cm
[本数]5本
フジ属のなかで最も紅色が濃く華やかな花を咲かせる。大きな蕾も特徴



ムラサキナガフジ(紫長藤)

[花色]藤色
[房長]50~100cm
[本数]約70本
紫と白の混じった花房が長く垂れる、美しく代表的な品種。古木・名木の多くがこの品種



シロナガフジ(白長藤)

[花色]白色
[房長]約60cm
[本数]11本
ふじ通りで最後に咲く遅咲きの小輪。白花種のなかで特に花房が長いのが特徴



ムラサキカピタン(紫花美短)

[花色]紫色
[房長]10~20cm
[本数]約50本
花房は短いが大輪。葉より先に花が出るので棚一面が鮮やかな紫色に輝く

植栽されているフジは7種類、218本!

春日部駅西口のメインストリート「ふじ通り」では、藤棚が総延長約1.1キロメートルにわたって続く。道路両側の歩道に沿って設置された藤棚には、7種類、218本のフジが植栽され(上図参照)、毎年、訪れる人々を楽しませている。

ふじ通りの歴史は、区画整理事業の一環として整備された1979(昭和54)年にさかのぼる。当時の広報紙には、「今年三月、春日部駅西口大沼線歩道に市花フジ百四十七本を植樹いたしました」との記述が残る。「ふじ通り」の名称は、83年に市民から愛称を募集し命名された。

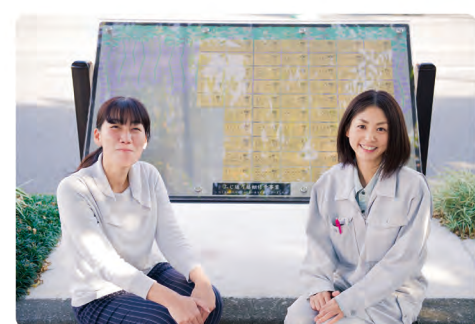
87年には、国土交通省の「手づくり郷土賞(ふれあいの並木道30選)」を受賞。これは、地域固有の自然や伝統、文化等を貴重な資源として再認識し積極的に活用した、魅力ある地域づくり成功している事例として評価されたものだ。

また市では、2016年にふじ通りのフジを景観法に基づく「景観重要樹木」に指定した。「これは、地域の良好な景観の形成に重要な樹木を指定し、それらの維持保全を義務づける制度であり、地域のシンボルとして親しまれているフジを、将来にわたって美しく保っていくための

ものです」(都市計画課山田主事) そんな「ふじ通り」も、整備から約40年が経過し、藤棚の老朽化対策が必要となってきた。そこで、現在さらなる魅力向上と安全な歩行空間の確保を図るため、藤棚の再整備を実施している。

「春日部市では、ふるさとがすかべ応援寄附金(ふるさと納税)の使い道の一つとして、この藤棚再整備事業に活用しています。また寄附をいただいた方は、オリジナルメッセージ等を刻印した銘板を作成することができ、その銘板はふじ通りに設置しています。このフジの花は、市民と一緒に守り、育てているんです」(道路管理課橋本技師)

春日部のシンボル「ふじ通り」。美しい景観は、市民の理解と応援で守られている。



都市計画課の山田さん(左)と道路管理課の橋本さん。二人の後ろには、寄附者の名を刻んだ銘板が並んでいる。